

自分のからだの主人公は自分

〜おうちで伝える性のおはなし〜

令和6年11月16日、目黒区男女平等フォーラム2024を中目黒スクエアで開催しました。講演会は、中高生や保護者、教育関係者へ性教育講座を実施し、多方面に情報発信、政策提言などの活動をされている特定非営利活動法人ピルコン理事長染矢明日香氏を講師にお迎えし、日本の性教育の現状、世界の動きなどについてお話を伺いましたので、講演の概要を掲載します。



特定非営利活動法人
ピルコン理事長
染矢 明日香 氏

性に関するお話をしますので、もし「不快になられたら、席を外していただいて大丈夫です。私は大学生のころから性について悩んだりした経験があり、卒業後、企業で働きながらNPO法人ピルコンを立ち上げたり、大学院で公衆衛生を学んだりしてきました。企業でどんなふうにお客さんに知ってもらおうかという仕事をしてきたので、性教育などについても、もっと楽しい話として広げていきたいと考えて活動しています。

皆さんは、どんな性教育を受けてきましたか

教室に女子だけ集められて生理用ナプキンの使い方を教えてもらうとか、保健体育の授業で取り扱うけれど、教科書を読むだけでよく覚えていないというお話を聞きます。

今の性教育は小学校4年生で射精や月経を習います。小学校5年生で受精を、中学生で性感染症や避妊についても学びます。

今日は日本のセクシユアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツ(性と生殖に関する健康と権利、以下「SRHR」という)の課題や、家庭や地域で知っておきたい性教育のことをお話していきます。

学習指導要領では、「いわゆる」は「め規定」があり、人の受精に至る過程や妊娠の経過は取り扱わないという規定があり、性交や避妊は教えていけないというように解釈をされています。国の中央教育審議会では、「教えるはならない」ではなく、すべての子どもに共通に指導すべき事項では

世界では、どのような性教育が行われているでしょうか

ないという趣旨としていますが、学校の先生は教え方が分からなくなっているのが現状だと思います。子ども・若者の性情報は友人や先輩からの情報、ネットやSNS、漫画、アダルト動画などの本当かどうか分からない情報が参考にされています。日本の妊娠中絶数は年間10万件以上で、梅毒など性感染症が増加傾向であったり、SNSを通じて搾取る大人と簡単につながってしまうので、若年層の性暴力被害をどのように解決するかも課題です。

インターネットやSNSは世界共通ですが、学校で幼い時から人権に基づく幅広い包括的性教育(包括的セ

教育らしくないですが、人権からとらえて幅広く学んでいくようになっていきます。

9歳から12歳では性交や妊娠について出てきます。12歳から15歳では、成長とは自分とほかの人に対する責任を取れるようになることであり、結婚や親になることには責任が伴うことや、ほかの人と性に関する考え方を共有することなども出てきます。15歳から18歳では性的行動を取るときは喜びを感じられるべきであり、健康や幸福に対する責任が伴うことが出てきます。これまでは性は危険でそれに対処するにはどうするか、という見方が主だったので、今までの性教育で言われていなかっただけです。さらに「意図しない妊娠は起こるもので、すべての若い人は必要なサービスや保護を受けられるべきである」と書いてあります。

これまでの日本の性教育は、「寝た子を起すな」という考え方をされるものが多くありますが、包括的性教育の効果に関する調査の中で、こうした包括的性教育によってリスクが減るだけでなく、自己肯定感が高まっていくことが知られています。

ジェンダーと権力の問題に明確に注意を払うと予期せぬ妊娠と性感染症の予防に成功する可能性が高まること

1994年の国際人口開発会議は「性や子どもを産むこと全てにおいて、単に病気がないだけでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態(well-being)であり、自分の身体に関することを、自分で決められる権利」を提唱しました。

いつ何人の子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足のいく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つこと、ジェンダーに基づく暴力によって傷つけられないこと、強要されることなくセクシユアリティを表現できること、そのための適切な情報や必要なサービスを得られること、最近ではSRHRに加えて、プレジャー(喜び)も大切にされています。

「おうちで伝える性のおはなし」

お配りしたパンフレットでは、家庭での性教育の四つのポイントをご紹介しています。

一つ目は子どもがどう考えるかを大切に、二つ目は科学的に話す、三つ目は子どもがどう考えるかを大切に、四つ目は性教育は一度で終わるものではなく、さまざまなテーマで繰り返し行うことです。

アメリカのAMAZE(アメイブ)という団体では、保護者が性教育をする際の大切なポイントとして10項目を挙げています。その中で「誕生に関する質問は性行為に関する質問ではありません」とあります。子どもに「赤ちゃんはどこから来るの?」と聞かれたときに、男女の命のものがあわさり、母親のおなかで育つと伝えられるし、子どもから聞かれるまで待つ必要はありません。私たちが学校でお話をする機会があるときは一期一会ですが、家庭では一回でうまく伝えられなくても、何回でもやり直しができます。

幼い子どもへの性教育はきつかけが難しいと考え向きもありますが、おむつを替えるときに「これから替えるね」とひこと声をかけるとか、お風呂で男女の体の違いに子どもが気付いたときに話をするなど、さまざまなお切り口があります。

バウンダリー(境界線)については、誰もが持つところ・体を守る安全な透

無断転載禁止 バウンダリー (境界線) とは?

誰もが持つところ・体を守る安心・安全な透明カプセルのようなもの



- ①物理的バウンダリー (自分のからだや持ち物、時間、空間などを守る)
- ②心理的バウンダリー (価値観、考え、プライバシーなど、自分の心を守る)
- ③社会的バウンダリー (マナーやルール、税関や法律などを守る)

☑わたしのバウンダリーはわたしが決める

☑バウンダリーの侵害=暴力・虐待

©PIRCON 2020

明カプセルのようなものと考えていただければいいです。自分の体や持ち物を守ったり、価値観やプライバシーを守ったり、社会的なルールやマナーを守ったりすることです。大切なことは自分のバウンダリーは自分が決めることです。誰かの体に触ることは、バウンダリーを越えることなので、相手の同意を確認することが大切になります。このような同意と「コミュニケーション」をとっていくのが、AMAZE(アメイブ)の動画が参考になります。

